



第2日目(7/15) 現地1日目 午前震災遺構伝承館



[速報ページへ](#)

[午後のページへ](#)



震災遺構伝承館

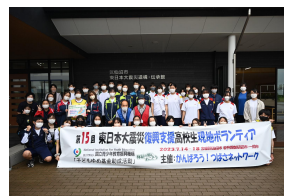
津波による被害を校舎4階まで受けた旧向洋高校が震災遺構として残されています。校舎に自動車が突っ込んでいたり、当時の様子が残されています。実際の震災遺構を見学することで、津波の被害の恐ろしさを感じることができました。また、津波被害の映像や近隣の被災者が避難している中学校の体育館で行われた卒業式の様子などの映像資料を見せていただきました。語り部の方に、施設を案内していただきながら当時の様子や被害状況、避難に関するお話を聞かせて頂きました。まさに現地で体験して学ぶ大切さを感じました。



南三陸町防災庁舎跡



防災庁舎跡の遺構公園



気仙沼・伝承館



津波が襲った3階



3階に流れ着いた自動車



4階・浸水の高さがわかる



校舎の間の自動車



浸水した4階



感想・ふりかえり



自分の振り返りを貼る

生徒たちのふりかえり

2年福岡

伝承館では実際の災害現場を映像だけでなく見ることができて東北に来たんだと強く感じた。その時と卒業生の方の答辞を聞くと友人、家族が当たり前にいる日常は貴重で尊く感謝するべきものだと再認識できた。かきの養殖場での体験では実際に育てられている牡蠣を見るだけで無く、アンカーを作ることで間接的ではあるが養殖に関わることができてとても貴重な体験となった。家族と1人の従業員さんだけでこの場所を切り盛りしているというのを聞いて地方の過疎化はこのような場面でも出ているのかなと思った。

ホストファミリーの田村さんと初めて会ったが震災の話を写真付きでお話ししてもらったり、庭で採れた野菜での豪華な食事でもてなしてもらってすぐに打ち解けることができてよかった。

2年本本

伝承館で震災当時のビデオや、津波の被害を受けた建物を見た。実際に高台から津波が押し寄せている様子が撮影されたものを見たが、そのままの家や車がいとも簡単に流されているのを見て、逃れられない恐怖を感じた。実際に建物の鉄骨が曲がったり、屋根のボルトがむき出しになっていて、自分の行っている学校もこんなものになってしまうのかなと思った。「大地が揺れたらすぐ逃げろ」という言葉や、わずか40分程で建物が流されてしまうくらい津波が来てしまったということを知り、災害の避難はできる限り早くしないとけないことを学んだ。伝承館へ行く途中の道路で、古い家がありなく、新しくたつたような家が沢山あり、震災で全て流されてしまったのかなと思った。

牡蠣の養殖場で砂利を詰めて重りを作ったが、1袋だけでも重くて大変なのに、ここまで家族で復興した方々の力強さを感じた。ホストファミリーの方が暖かく迎えてくださって、美味しいご飯や、震災当時の写真が乗った本を見せて下さり、今までの疲労や緊張が吹き飛んでいった。

1年田口

今日の午前は、東日本大震災遺構・伝承館に行きました。そこで語り部の方にガイドをしてもらい、たくさんのお話を聞かせていただくことができました。語り部の方が「津波がきたら、遠くよりも高い所に逃げること」や「長く、激しく揺れた地震や長く、ゆったりとした地震は危ないので気をつけること」などのことを何度もおっしゃっていたのでそのようなことはこれからも心がけていきたいと思えます。

午後には牡蠣の養殖いかだを固定するための砂利袋をみんなで180袋ほど作りました。中々の力仕事で疲れたけれど、達成感はとてもありました。また、その牡蠣の養殖の方々と一緒に取り組み、お手伝いできたかなと思います。そして、夕方からは今日と明日民泊させていただく家の方々と会い、とてもおいしいハマミ井も頂かせていただきました。とても温かく迎えてくださり、良い2日間になりました。